

北海道リハ支援センターの 活動状況と課題 -第2報-

北海道リハビリテーション支援センター

(社)北海道総合在宅ケア事業団

理学療法士：岡田しげひこ・渡辺晋輔、 作業療法士：菊地啓介

札幌医科大学

医師：石合純夫、 理学療法士：石川朗・江刺家修・古
名丈人、作業療法士：坪田貞子・加藤正巳・後藤葉子、
看護師：林裕子

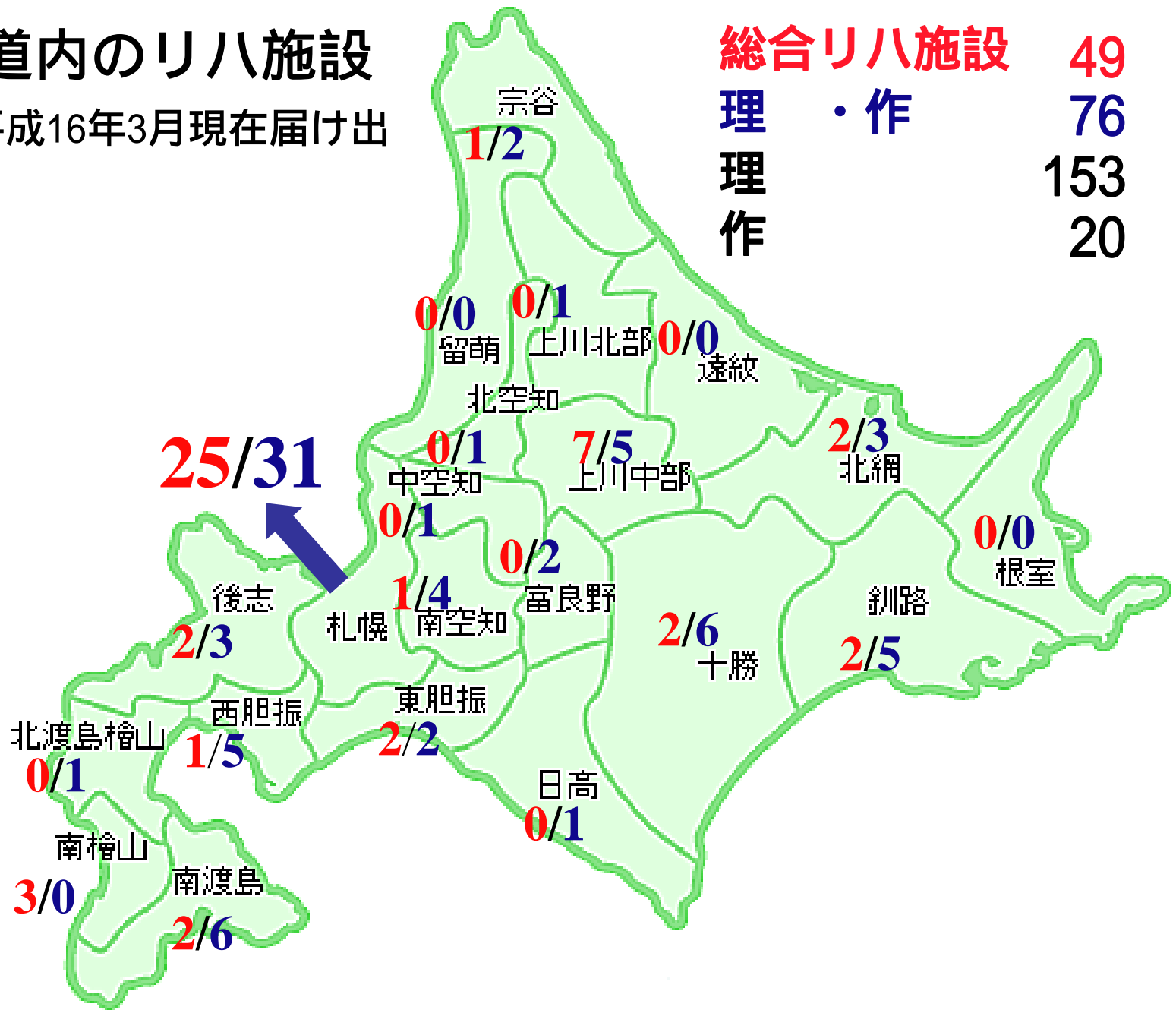
目的

- 北海道リハ支援センターの2年目の活動を通して、平成16年度までに開設した13圏域の地域リハ広域支援センターの現状と、北海道リハ支援センターの今後の課題について報告する。

道内のリハ施設

平成16年3月現在届け出

総合リハ施設 49
理・作 76
理 153
作 20



北海道独自の地域リハ広域支援センター

地域リハ広域支援センター <地域リハビリ推進会議>

構成：医師会・歯科医師会
理学療法士会・作業療法士会
言語聴覚士の会・看護協会・他
協力病院、市町村 等
事務局：リハビリ実施医療機関

理事会

運営委員会

講師バンク

地域懇談会

支援

保健所

相談

支援

相談

市町村，介護老人保健施設，訪問看護
ステーション，病院・診療所，在宅介
護支援センター，介護特別老人ホーム
デイケア施設，療養型病床群，他

支援

住民

相談

患者の会
家族の会
ボランティアグループ

地域リハ広域支援センターの設置

平成14年度

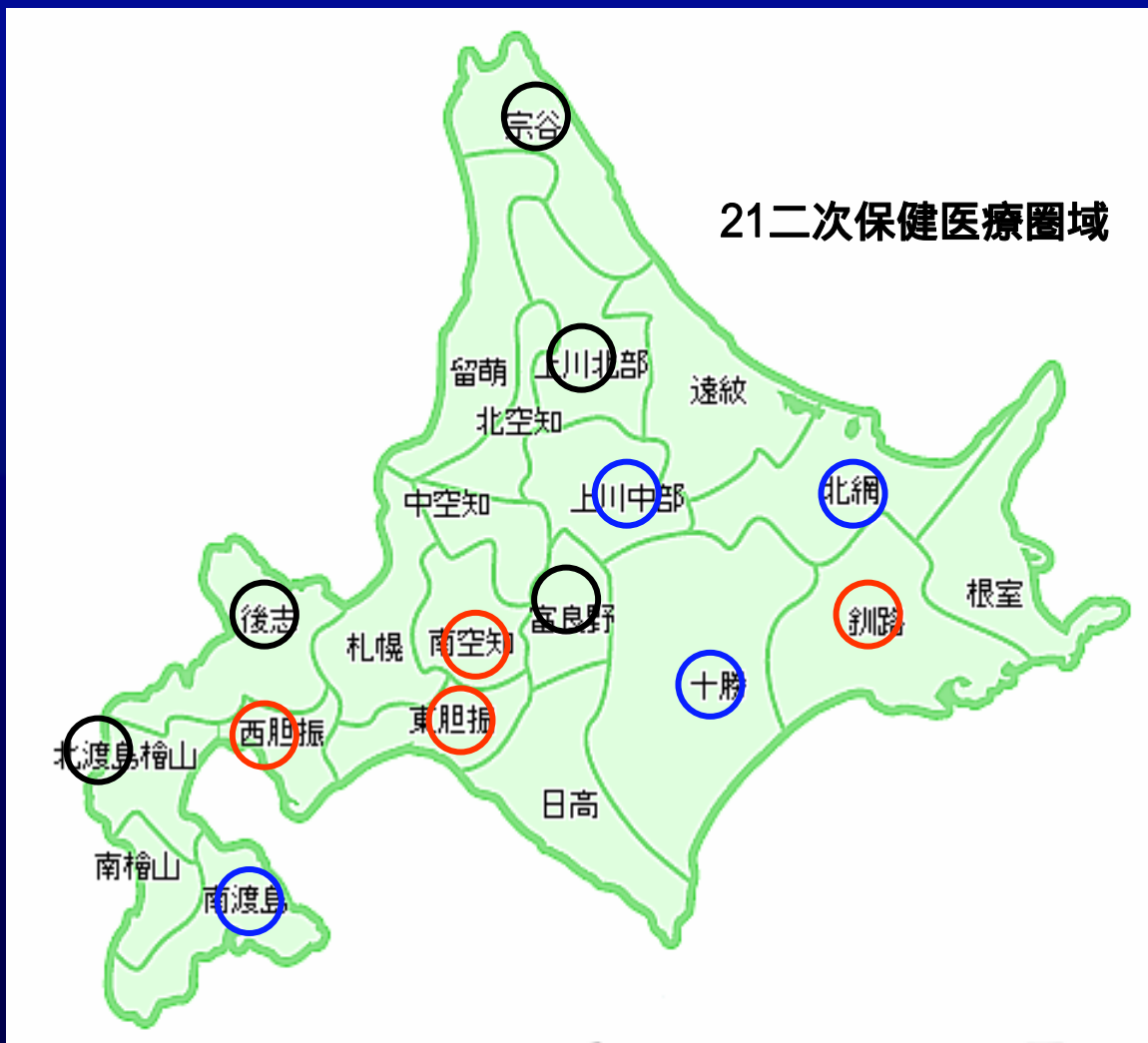
- 上川中部 (14/ 8/ 1)
- 南渡島 (14/ 8/ 1)
- 十勝 (14/ 9/27)
- 北網 (14/10/17)

平成15年度

- 西胆振 (15/ 8/29)
- 東胆振 (15/ 8/29)
- 南空知 (15/ 9/25)
- 釧路 (15/10/20)

平成16年度

- 上川北部 (16/ 7/ 6)
- 宗谷 (16/ 7/13)
- 北渡島檜山 (16/ 8/ 5)
- 後志 (16/ 9/25)
- 富良野 (16/10/18)



北海道リハ支援センターの 平成16年度活動状況

相談事業：講師相談等、ホームページ更新（6回/年）

講師派遣事業：講師派遣(6件)、講師バンク充実

研修事業：広域支援センター研修会(1回/年・122名参加)

調査・研究事業：

- 1) 北海道リハ資源調査（アンケート調査）
- 2) 研究発表

広域支援センターの各種事業の評価：

- 1) 広域支援センター連絡会議（1回/年・67名参加）
- 2) 広域支援センター活動の評価(視察：12圏域)

その他：支援センター運営委員会（6回/年）

地域リハ広域支援センターの現状 <うまくいってること>

- 事務局だけでなく事業別委員会等の設置が円滑な運営のポイント。
- また、先発の広域支援センターや保健所からのアドバイスを活用している。
- 研修事業は、アンケート調査や経費軽減の工夫、他団体との共催が行われている。
- また、研修の企画・運営活動が地域の多職種の交流の場になっている。
- 講師派遣しやすい環境づくりの取り組みがされ始めている。

地域リハ広域支援センターの現状 <うまくいっていないこと>

- 地域への活動の浸透。
- 圏域の市町村行政との連携。
- 市・郡部の医師会との連携。
- 担当圏域が広すぎる。
- リハ資源が乏しい圏域での活動。
- 補助金活用の困難さ
- 補助金終了後の財源確保

北海道リハ支援センター の今後の課題

- リハ資源の乏しい地域での広域支援センターの新規開設時の援助強化
- 広域支援センター事業評価方法の提示
- 住民への地域リハ資源の還元活動
- 行政など協力機関との連携強化
- 補助金終了後の事業戦略

おわりに

この事業は国庫補助事業であり、今後の国や道からの関わりがなくなったときに、地域リハ活動が自立的に発展していくためには、地域の保健-医療-福祉活動の連携して、しっかりした基盤をつくることが重要である。

- 北海道は、リハ資源が乏しい地域だからこそ、「医療・保健・福祉のシステムづくり」が特に必要。
- 北海道リハ支援センターは、その活動の要となる広域支援センターに協力・援助していく。